

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 令和元年5月17日（金）第1校時

1 内容および題材名 B 衣食住の生活 住生活「住居の機能と安全な住まい方」

2 題材設定の理由

住まいは人間にとって生活の拠点であり、そこで生活する家族の心身を守り育む場でもある。そのため、家族一人ひとりにとって安全・安心かつ快適な空間であり続けることが求められる。近年、東日本大震災や熊本地震などの自然災害により、住まいに対する安全・安心への関心は高まっている。また、少子高齢化による社会の変化もめまぐるしく、住居の機能と安全な住まい方については身近な問題として考えていかなければならない。

ここでは、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

生徒の住宅事情は多様であり、個人差が大きい。また、衣・食生活に比べ、住生活を学習することのイメージがつきにくい。中学生段階における住生活の学習では、「安全」、「快適」というキーワードがあげられる。住まいを簡単に変えることはできないが、住まいが衣食住と同じように、生きる上で不可欠なものであることに気付かせ、住まい方を工夫することでより安全で快適に生活していくことができることを理解させることが大切である。近年起こった熊本地震や北海道胆振東部地震を踏まえ、震災を教訓とし、安全・安心な住まい方について考えさせるとともに、快適な住まい方についても考えを深めさせ、家族の一員として果たすべき役割を意識させながら、実践につなげさせることが重要である。

指導にあたっては、小学校の内容（暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点を置いた快適な室内環境の整え方）との体系化を図り、模型教材を用いて、生徒が具体的に理解できるように工夫した。模型教材を導入することで、実際の場面の想定につなげ自分の住まいと関連して考え、より考えを深めさせる場面を設定した。授業設計においては、これから予想される生活の中で実用性のあるリアルな課題設定を用い、主体的に思考・吟味する活動を充実させ、新たな価値を見付け、生み出させる工夫を行った。また、題材のまとまりの中での学習を総合的に振り返る場面を設定することで、生徒が各教科や各分野・内容でこれまでに習得した知識や技能、経験をもとに、問題意識をほりおこし、家庭と社会とのつながりや技術と社会・環境とのかかわりの中から問題を見だし、新たな課題設定へとつなげさせることも期待した。更に、建築に関する専門家や防災に関する専門家をゲストティーチャーとして招き、さまざまな情報を元に解決方法を探り、それらの交流活動を通して、生徒の安全に対する知識、見方・考え方を広げ、より質の高い問題発見と課題解決を図れるよう工夫した。

以上のことから、実践的・体験的な学習活動を充実させながら、未来の自分たちの社会における安全な住生活の在り方について考えを深めさせるとともに、創造的な学びを充実させ、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育成できるように本題材を設定した。

3 題材の指導目標

(1) 知識及び技能

住居の基本的な機能について、家族の生活と住空間との関わりや、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方についての基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせる。

(2) 思考力、判断力、表現力等

家族・家庭や地域における生活の中から住生活について問題を見だし、課題をもって考え、解決する力を育む。

(3) 学びに向かう力、人間性

住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度や住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度を育む。

4 題材の評価規準と指導計画（「B 衣食住の生活 住生活」住居の機能と安全な住まい方 全7時間）

(1) 評価規準

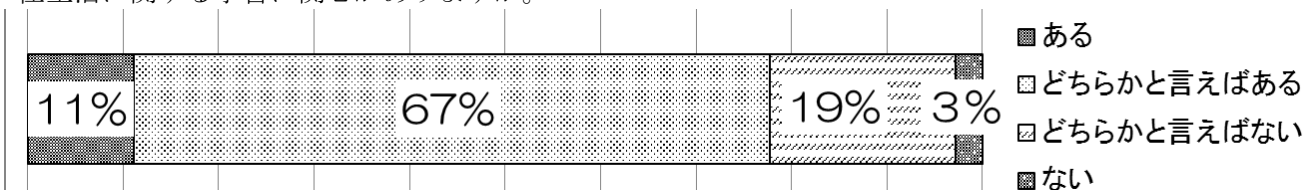
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 住居と家族・家庭の基本的な機能について理解している。 ② 住居と家族・家庭の基本的な機能と関連させながら、住空間の使い方の工夫について理解している。 ③ 我が国の伝統的な住宅や住まい方に見られる特徴について理解している。 ④ 安全な住空間の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。 ⑤ 室内の空気環境が家族の健康に及ぼす影響について理解している。	① 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。 ② 家族・家庭や地域における生活の中から住空間について課題を見付け、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。	① 自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 ② 安全を考えた住空間に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。 ③ 快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。

(2) 指導計画

学習内容	時数	主な指導内容	評価規準
1 住まいの役割	1	住まいの基本的なはたらきを理解させ、住まいに必要な空間と役割を知らせる。	アー①
2 生活行為と住空間	1	住まいの空間と家族の生活行為との関わりについて考えさせる。	アー② ウー①
3 日本の住まいと住まい方	1	我が国の伝統的な住宅や住まい方に見られる様々な知恵に気付かせ、生活文化を継承する大切さを理解させる。	アー③
4 安全で安心な住まい	2	住居内で家族が安全に生活するために住空間を整える必要性を理解させる。	アー④ ウー②
		自然災害などを想定し、家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫させる。	イー①
5 健康で快適な住まい	1	室内の空気が汚れる原因を知らせ、安全な室内環境を整える必要性について理解させる。	アー⑤
6 よりよい住生活を目指して	1 (本時)	これまでの学習を総括し、より安全で快適な住空間の整え方を様々な視点から検討させ、模型教材を用いて具体的に説明させる。	イー② ウー③

5 生徒の実態（実施：平成 31 年 4 月 5 日

(1) 住生活に関する学習に関心がありますか。



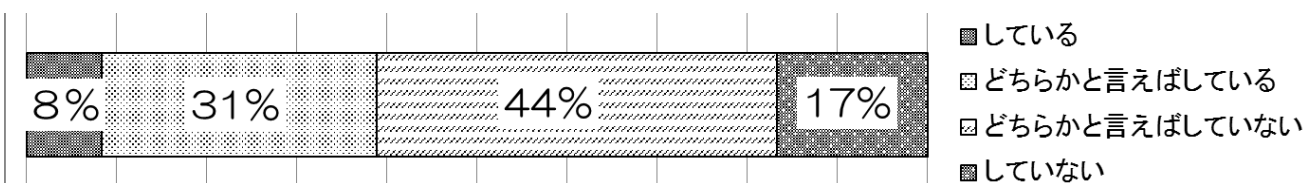
(2) 住生活に関する学習で関心がある項目は何ですか。（自由記述）

- ・ 安全に関する記述 …13 人
- ・ 住まいのはたらきに関する記述… 4 人
- ・ 整理整頓・掃除に関する記述 … 2 人
- ・ 快適な住まい方に関する記述… 6 人
- ・ 間取りに関する記述 … 3 人
- ・ インテリアに関する記述 … 2 人

(3) 住まうことに関して、大切だと思うことはどのようなことですか。（自由記述）

- ・ 快適な住まい方に関する記述 …16 人
- ・ 安全に関する記述 … 5 人
- ・ 家族生活に関する記述 … 8 人
- ・ 衛生面に関する記述 … 3 人

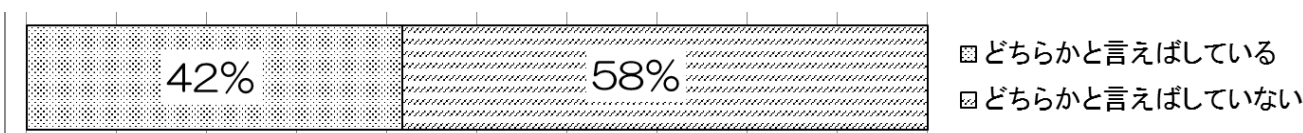
(4) 災害時に備えて具体的な準備を行っていますか。



(5) 具体的にどのような工夫を行っていますか。（選択複数回答）

- ・ 非常食や水を用意している …14 人
- ・ 家族間での災害時の行動を決めている… 7 人
- ・ 家具の転倒防止や固定をしている … 5 人
- ・ わからない …21 人
- ・ 災害時の避難経路を決めている … 9 人
- ・ 非常時の持ち出し品を決めている… 6 人
- ・ 保険に加入している … 3 人

(6) 快適に住まうための工夫を行っていますか。



(7) 具体的にどのような工夫を行っていますか。（自由記述）

- ・ 温度調整に関する記述 … 7 人
(エアコンの利用等)
- ・ 季節に合わせた住まい方に関する記述… 1 人
- ・ 通風（湿度調整）に関する記述 … 2 人
- ・ 掃除に関する記述 … 1 人
- ・ 無回答 …20 人

<考察>

アンケートの結果を見ると、住生活の学習に関心が「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒は78%といた。生徒にとっては衣生活や食生活に関する学習と比べ、イメージのつきにくい学習内容ではあると考えられるが、関心を示している生徒も多いことが分かった。

一方で、「住生活に関する学習で関心がある項目は何ですか」という問いに対しては、安全に関する記述が比較的多く見られた。更に、「住まうことに関して、大切だと思うことはどのようなことですか」という問いに対しても安全に関する記述が16人と多く見られ、東北大震災や熊本地震などの影響から、住生活の学習において安全に関する意識は比較的高い様子が見られた。しかし、「災害時に備えて具体的な準備を行っていますか」という問いに対しては、「している」と答えた生徒はわずかに8%しかおらず、「どちらかといえばしている」と答えた生徒と合わせても、39%にとどまった。具体的な工夫についても、「わからない」と答えた生徒が21人見られ、安全・安心な住まい方について考えさせ、実践させていくことの必要性を感じる。

また、「快適に住まうためにどのような工夫を行っていますか」という問いに対しては「無回答」が20人おり、具体的な記述があまり見られなかった。安全な住まい方と共に、リアルな課題として快適さを求めた住まい方の工夫についても指導の必要性を感じる。

指導に当たっては、模型教材やICTの活用を行い、災害時に備えた住まい方の工夫を考えるとともに、小学校の内容との体系化を図り、住生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てたい。

6 本時の実際

(1) 主 題 よりよい住生活を目指して

(2) 指導目標

住空間について課題を見付け、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫させる。

(3) 目標行動

住まいに関する既習事項と自分の生活を関連づけて課題を見付け、より安全で快適な住空間の整え方を様々な視点から検討し、模型教材を用いて根拠を示しながら説明できる。

(4) 評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準		家族・家庭や地域における生活の中から住空間について課題を見付け、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。	快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。
すべき生徒の姿		家庭内の事故、室内の空気環境、自然災害などの備えの既習事項と自分の生活を関連づけて課題を見付け、より安全で快適な住空間の整え方を、模型教材を用いて根拠を示しながら説明できる。	自分の生活と関連付けながら、積極的に課題を解決しようとしている。

(5) 授業設計の視点

ア 「相互練り上げ」の場面における対話する活動を活性化させる指導の工夫

対話する活動を充実させる工夫として、「技術・家庭科相互練り上げ7か条」によるグループ活動の活性化を図った。1年次よりの継続的な活動に加えて、年度当初の授業開きにおいて再度グループリーダーの選出と話し合いの方法の確認を行う場の設定を行った。知識や技能、体験を理由付けしながら、質の高い対話をする活動が行えるように配慮した。

イ 「価値を見付け・生み出す活動」を充実させる指導の工夫

「価値を見付け・生み出す活動」を充実させる指導の工夫として、具体的に「ハウスメーカーの展示係」として、より安全で快適な住空間の整え方を、模型教材を用いて根拠を示しながら提案する場面を設定した。これからの生徒の生活において実際に起きうるであろうリアルな課題を設定し、また、住まい方を提案する側になって具体的に説明させることで、主体的に思考・吟味する活動の充実を図り、新たな価値を見つけ・生み出すことにつながるよう工夫した。また、その際に建築に関する専門家と防災に関する専門家の考えを取り入れる場を設定し、さまざまな情報を基に解決方法を探らせ、より質の高い問題発見と課題解決につながるよう工夫した。

更に、課題解決場面において、根拠、理由付け、主張を用いた記述に加えて、教科特有の「見方・考え方を働かせた記述を行うよう工夫した。キーワードを明確にして記述できるように題材を通して繰り返し、見方・考え方を働かせる場面を設定することにより、今までにない価値を見つけ・生み出す活動が充実するよう工夫した。

ウ 知識・技能を活用するための題材指導計画の工夫

題材を貫いて、問題解決的な学習になるよう題材指導計画の工夫を行った。具体的には題材の序盤から中盤にかけて「知識及び技能」を習得する学習活動を充実させた。そして、題材の終盤において、それまでに獲得した「知識及び技能」や経験を活用し、「思考力・判断力・表現力等」を働かせる学習活動を位置付けた。「知識及び技能」が生活に応用・発展できる場を設定することで、資質・能力を高められるよう工夫した。

(6) 学習過程

過程	学習の流れ	時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
ほりおこし	はじめ				
	社会への着目 1		1 社会の状況に着目する。	1 未来の住生活に関する状況を想定させ、リアルな課題設定へと繋げさせる。 【教科論(3)-ウ】	2 ワークシート
導入	補 4				
	学習課題の設定 2		2 学習課題を設定する。	3 生徒の発言から設定させる。 4 学習課題を設定できない生徒には、補足説明を行う。	
課題の共有化	わかったか 3				
	場面の設定 5	5	5 場面の設定を行う。 【場面】 ハウスメーカーの職員として、5人家族に向けて住まいづくり(住まい方)の提案をする。	5 具体的な家族設定を行い、家族にはどのような願いがあるかを想起させる。 6 挙手により確認をする。 7 時間の経過に伴う変化にも着目させ、多面的な視点をもたせる。	
自己追究	わかったか 6				
	補 7				
展開	視点の確認 8		8 安全や快適の視点を確認する。 【安全】 ・家庭内事故 ・自然災害 【快適】 ・暑さ・寒さ ・通風・換気 ・彩光 ・音	8 既習事項を確認し、視点を踏まえた住まい方を確認する。	8 ワークシート TV, PC
	補 11				
相互練り上げ	安全・快適な住まい方 9	10	9 安全・快適に住まうための工夫を考える。	9 模型教材を使い、家具の選択や配置を行わせ、安全・快適な住まい方について考えさせる。	9 ワークシート 模型教材
	できたか 10				
自己解決	補 14				
	住まい方の工夫の具現化 12	22	12 個で考えた安全・快適な住まい方を共有し、グループで練り上げ、模型教材に具現化する。	12 「見方・考え方」の視点を踏まえさせるとともに、理由付けを明確にさせる。 【教科論(1)-ウ】	12 相互練り上げ7か条 ワークシート 模型教材
終末	できたか 13				
	工夫の練り直し 15		13 隣同士のグループ間で説明をした後、建築士に向けて説明を行う。 【家庭内の事故】 ・家具の種類 ・部屋の使い方 ・家族の身体の特徴 等を踏まえた工夫	13 役割分担をさせて、効果的に伝達させる。また、多面的な見方を働かせながら共有させる。 14 専門家に住まい方の工夫の課題点を挙げてもらい、よりよい住まい方へと練り上げさせる。 【教科論(3)-ウ】	13 外部リソース (建築士)
自己評価	できたか 16	10	15 建築士からのアドバイスをもとに、個でより安全・快適な住まい方の工夫を練り直す。	15 根拠となる価値観をもってよりよい住まい方を考えることの重要性に気付かせる。	15 ワークシート
	補 17				
終末	本時のまとめ 18		16 ワークシートに記入する。	16 学びを踏まえて、「見方・考え方」をはたらかせて記入させる。 【教科論(3)-ア】	16 ワークシート
	次時の課題設定 19	3	18 本時のまとめを行い、安全・快適な住まい方に必要なポイントを確認する。	17 よい考えの生徒の意見を全体に紹介し、気付きを深めさせる。	17
	おわり				
			19 本時の学習をもとに、自らの住生活の問題を見だし、課題設定へと繋げる。	18 建築士により実際の住まいの工夫を紹介し、今後の生活へと繋げさせる。 住生活に対する家族の思いや願い(目的や状況)を踏まえて住空間の整え方を工夫すればよい。	18 ワークシート TV, PC
			19 本時の学習をもとに、自らの住生活の問題を見だし、課題設定へと繋げる。	19 次時までの時間に情報の収集や整理を促し、自らの住生活の課題設定へと繋げさせる。	